

北京モーターショー2026 レポート

- 本資料に記載されている情報は当社が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、正確かつ完全であることを当社が保証するものではありません。この資料に記載された意見、経済全般の実績、評価または将来動向の表示などは、作成日時点におけるものであり、予告なく変わる場合があります。この資料は、提供させていただいたお客様限りでご使用ください。
- 当社は、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。これは、たとえ当社がかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

目次

1. 北京モーターショーの基本情報
2. 北京モーターショーから見る中国自動車最新トレンド
3. 「匠新（ジャンシン）」会社紹介

北京モーターショーの基本情報

北京モーターショー2026 (Auto China 2026)

開催期間	2026年4月24日~5月3日
開催地	中国 北京
会場	中国国際展覽中心（順義館）, 首都国際展覽中心
2025年実績	来場者数128万人、うち海外来場者は6.5万人
公式サイト	https://www.autoshow.org.cn/

北京モーターショー2026：会場の平面図



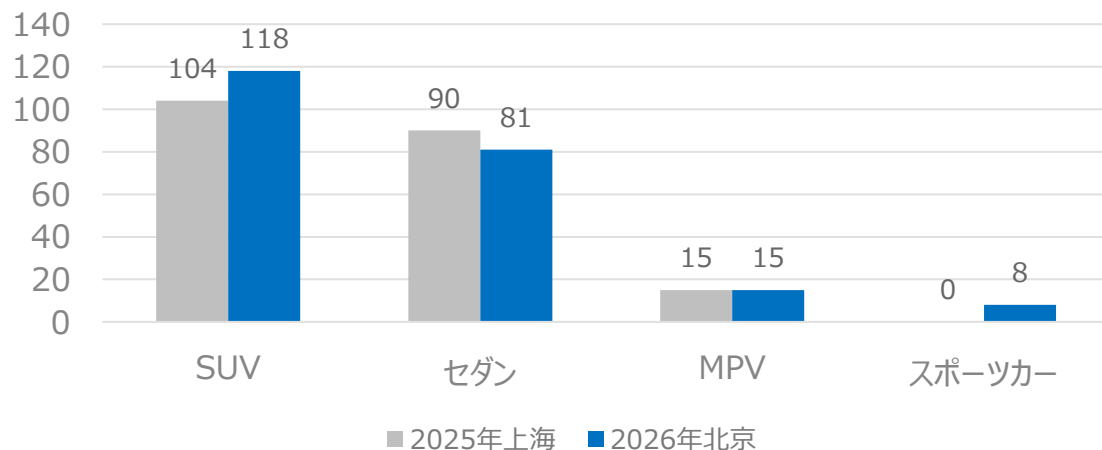
北京モーターショー2026：スケジュール

日程	入館・閉館時間	分類
4/24~25 (金-土)	9:00~17:30	国内外メディア向け
4/26~27 (日-月)	10:00~18:00	業界関係者向け
4/28~5/3 (火-日)	10:00~18:00	一般参加者向け

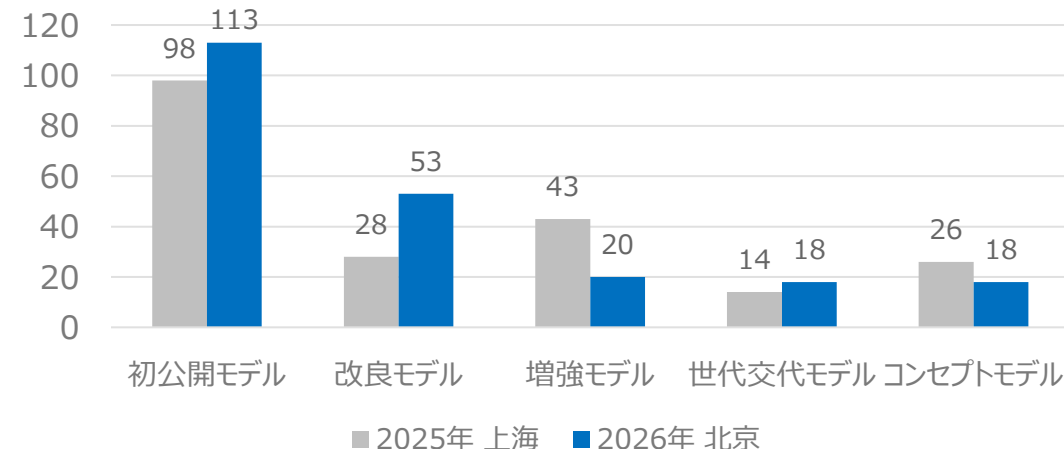
データ統計から見る北京モーターショー2026（新車のみ）

北京モーターショーでは公開新車222モデルのうちSUVが118モデルを占め、初公開モデルも113モデルに達し、SUVの存在感が際立った

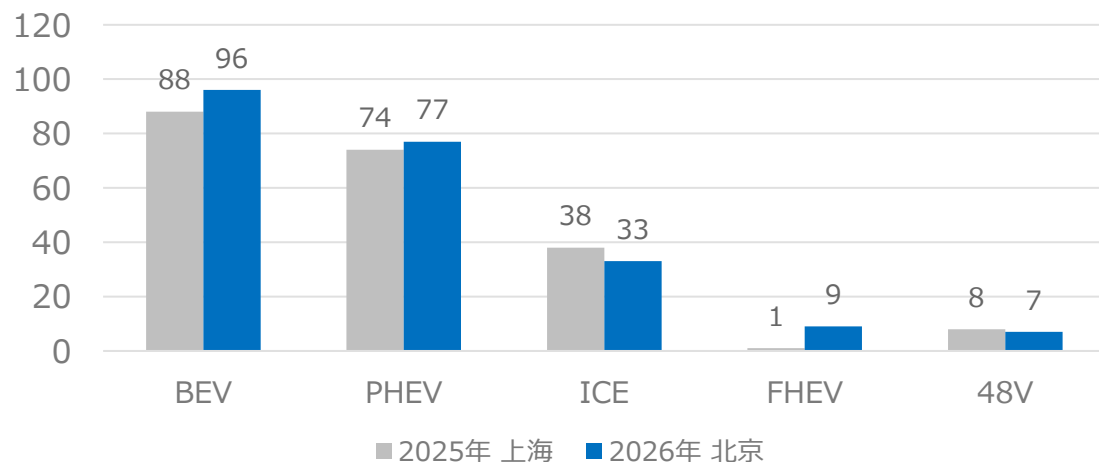
展示された新車の車種別統計



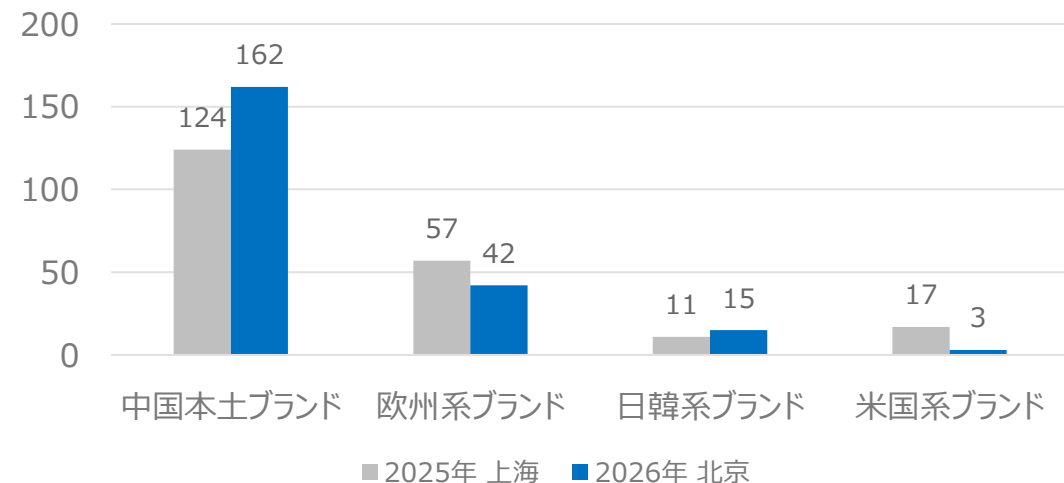
展示された新車のモデル位置付け別統計



展示された新車のパワートレイン別統計



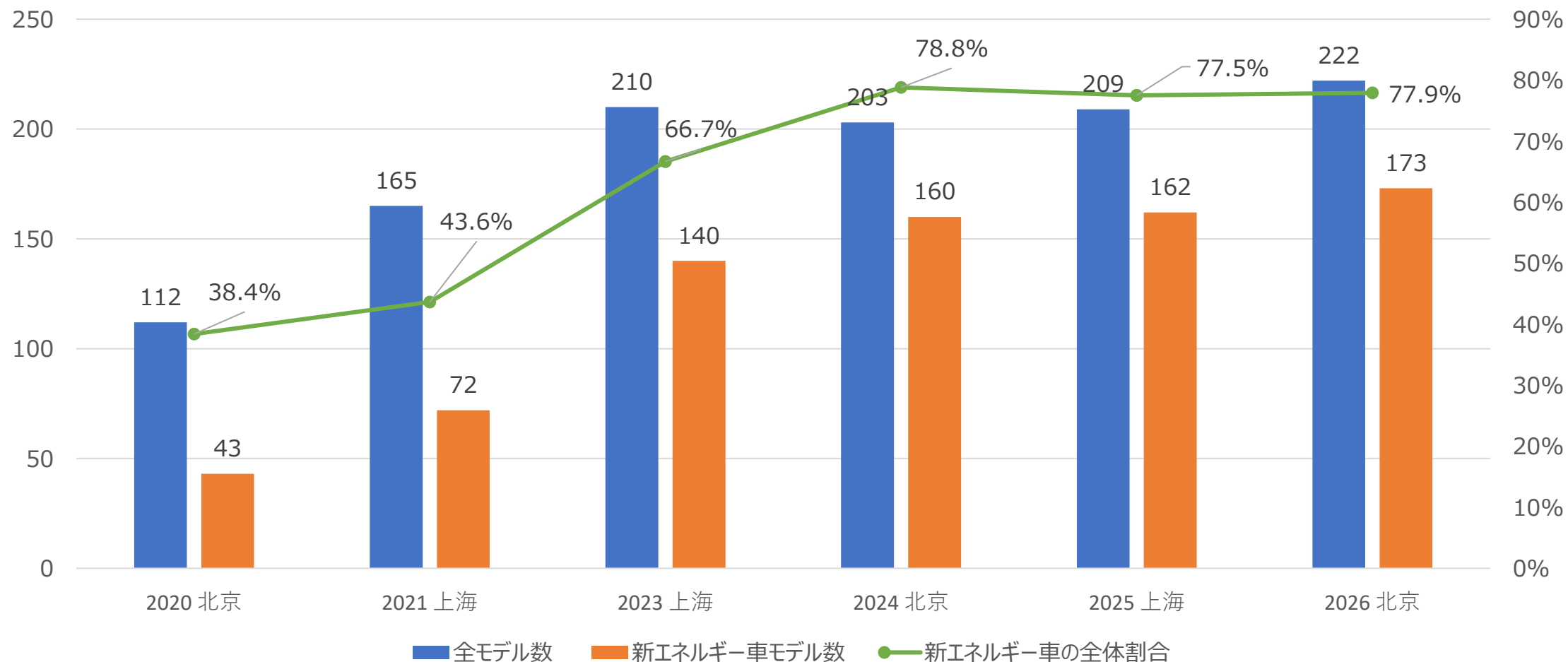
展示された新車のブランド系統別統計



データ統計から見る北京モーターショー2026（新車のみ）

2026年北京モーターショーで公開された新車は計222モデル、このうち新エネルギー車は173モデルで、全体の約8割を占めた

国際モーターショーにおいて発表された新車に占める新エネ車の割合（2020-2026 北京・上海）



※2022年に開催予定だった北京モーターショーは、コロナウイルス流行の影響を受けて中止

※中国市場の技術・戦略動向把握を目的とし、北京・上海モーターショーを対象としている

北京モーターショーから見る中国自動車最新トレンド

トレンド①：車載バッテリーが超急速充電の「標準装備」時代へ

動力電池は多様な技術ルートが並行して進化する新段階に入り、特に超急速充電技術（10C～15C）の高度化が注目されている

- **バッテリーアップグレード**：2026年の北京モーターショーでは、動力用バッテリー業界は、単なるエネルギー密度競争の段階から脱し、「超急速充電の普及」、「全固体電池・半固体電池の量産化」、「ナトリウムイオン電池の本格展開」など、多様な技術路線が並行して進化する新たな局面に入った。
- **超急速充電技術（10C～15C）**：従来の4C・5Cから10C～15Cへと大きく進化しており、極寒環境下での高速充電や、1000A級の大電流充電も標準仕様になりつつある。これにより、冬季における充電性能の課題がシステムレベルで解決され始めている。

重点企業の急速充電バッテリーの最新動向

BYD：第2世代ブレードバッテリー



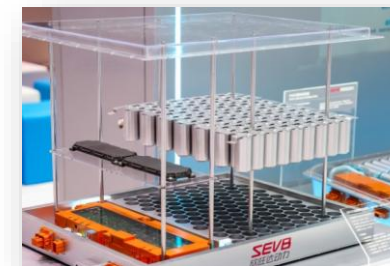
- 「閃充」超急速充電技術：5分で90%充電、9分で満充電可能。-30℃環境でも、充電時間の増加はわずか3分。
- 硫化物系全固体電池：エネルギー密度480Wh/kg、航続距離1000km超、5C超急速充電に対応。車載検証も完了。

寧徳時代：神行超充電電池 + 麒麟電池 + 凝縮系電池



- 第3世代「神行」超急速充電電池：10C～15Cの超高速充電に対応し、6分で満充電可能、-30℃でも9分で98%まで充電。
- 第3世代「麒麟」電池：280Wh/kgの高密度で、航続1000km・車重255kg軽量化。
- 「凝縮系電池」：350Wh/kgを実現し、最大1500km走行可能。

欣旺達：欣星環バッテリー + ナトリウムイオン電池



- 欣星環の大円柱電池（46シリーズ）：15C急速充電対応、9分で95%充電。800～1000Vシステム対応。
- 「欣納擎」ナトリウムイオン電池：-40℃でも90%以上の使用容量を維持。15C放電に対応。
- 重要戦略：AI + バッテリーを推進し、バッテリー状態のリアルタイム監視を実現。

トレンド②：EVスタンドは「数分充電」競争へ

北京モーターショーでは、EV各社が急速充電技術を重点展示し、「数分充電」が新たな競争テーマとして注目を集めた

急速充電は「数分充電競争」へ：北京モーターショーでは、急速充電技術が全面的に展示・実用化され、「数分充電」が新エネルギー車メーカー各社の主要な差別化ポイントとなった。比亞迪（BYD）、極氪（ZEEKR）、奇瑞（Chery）、Huaweiなどが最新技術を披露し、1MW級の高出力化、超高電圧化、液冷・SiC技術採用が業界トレンドとして鮮明化。EV競争軸は「航続距離」から「充電速度」へ移行しつつあり、充電インフラを含めた総合競争が加速している。

新エネルギー車メーカー各社の急速充電技術

BYD「兆瓦閃充充電 2.0」



- 最大充電出力：1500kW
- 最大充電電流：1000A
- 10%→79%充電：約9分
- 5分充電で約400km走行可能

極氪「極充V4」



- 1500V高電圧プラットフォーム+ SiC全面採用
- 最大出力：1.5MW
- 30%→80%充電：約7.5分
- 5分充電で約500km走行可能

奇瑞「超高速充電」



- SiC採用による超高速充電技術、V2G対応
- 充電倍率：12C
- 8分充電で約500km走行可能

華為「全液冷スーパー充電」



- SiC搭載の全液冷構造を採用
- 変換効率95.5%、ピーク効率97%
- 液冷ケーブルにより軽量化を実現

小鹏「S5液冷スーパー充電」



- 最大出力：800kW
- 最大電流：800A
- 10%→80%充電：約10分
- 航続距離：約450km

星星科技「HPC V4 超充電スタンド」



- 海外展開向けモデル、単機出力2000A
- 出力：1920kW
- 液冷プラットフォーム採用
- 5分充電で約450km、10%→80%充電：約4分

理想「5Cスーパー充電」



- 最大出力：520kW
- 最大電流：740A
- 12分充電で約500km
- 10%→80%充電：約11分

東風「VP1000液冷スーパー充電」



- 全液冷設計、最大出力1000kW
- 最大電流：1000A
- 1秒充電で約1.7km走行可能
- 10%→80%充電：約8分

トレンド③：ステアバイワイヤを含むスマートシャシーの実用化が加速

スマートシャシーの量産化が多技術方面で進化が加速、国内外メーカーも自社開発と技術高度化を積極的に推進している

- ステアバイワイヤとは、日本経済新聞により、ステアリング(操舵装置)とタイヤを機械的につながらずに電気信号でタイヤを制御するシステム。ハンドルの操作角をセンサーで電気信号に変換し、ECU(電子制御ユニット)を通してタイヤ操舵角を制御する。
- 2026年北京モーターショーは、スマートシャシーがコンセプト段階から大規模量産へ移行する転換点となり、その中核的特徴は、全面的なバイ・ワイヤ化、完全アクティブ制御化、ドメインコントローラー統合、そしてコスト低減にある。

企業	スマートシャシーソリューション	主な特徴
理想	完全統合型ステアバイワイヤシャシー + 800Vアクティブサスペンション	<ul style="list-style-type: none"> • 単輪最大1万N超のリフト力を実現し、四輪独立制御に対応。高い車体安定性を確保 • 自社開発の5nm「Mach 100」チップを搭載し、エンドツーエンド遅延を40%低減
BYD	「雲輦-Z」+「易三方」制御システム	<ul style="list-style-type: none"> • 「雲輦-Z」: 磁気浮上モーター式サスペンションを採用、ミリ単位での高精度制御を実現 • 「易三方」: 3モーター独立駆動、後輪独立操舵、車両統合制御に対応
蔚來	天行スマートシャシー (SkyRide) + ステアバイワイヤ	<ul style="list-style-type: none"> • 電液統合型フルアクティブサスペンションを採用 • AIによる感知・判断・制御の統合制御を実現、シャシーに高度な統合制御機能を搭載
小鹏	X-VMCインテリジェント統合シャシー + ステアバイワイヤ	<ul style="list-style-type: none"> • 航空機レベルの6重安全冗長設計を採用 (操舵・制動・駆動・通信・電源・解除)
零跑汽車	フルドメイン・バイ・ワイヤシャシー	<ul style="list-style-type: none"> • 車にデュアルチャンバー式エアサスペンション + CDC可変ダンパーを標準搭載 • シャシー主要4系統 (操舵・制動・懸架・駆動) を完全電子制御化
華為	「途靈」プラットフォーム + 「乾崑ADS」スマート自動運転システム	<ul style="list-style-type: none"> • 896ラインLiDAR搭載、長距離・高精度センシングに対応 • 「CAS 5.0」全方位衝突防止システムを搭載し、6次元安全性能へ進化
智己汽車	「靈蜥」デジタルシャシー 3.0	<ul style="list-style-type: none"> • 信号伝達速度は20ms、従来比4倍超の応答性能を実現 • 中国汽研の信頼性試験をクリアした初のバイ・ワイヤシャシーを採用
ベンツ	ステアバイワイヤシステム + エアサスペンション	<ul style="list-style-type: none"> • ステアリングと車輪の機械的接続を完全廃止 • L3自動運転対応を見据えたハードウェア構成を提供
BMW	「ドライビング・スーパーブレイン」中央制御ユニット	<ul style="list-style-type: none"> • 中央統合制御ユニットの処理性能を10倍向上 • 中国市場向けに最適化したシャシー・サスペンションを開発

理想L9 Livis



仰望U7 (BYD)



蔚來ES9



小鹏GX



零跑D19



問界M9



智己LS8



ベンツS



トレンド④：エッジ側大規模AIモデルへのシフト

エッジ側大規模モデルが車載に実装され、面壁智能と商湯科技が関連製品を発売、プライバシー保護、オフライン利用可能の強みを持つ

- エッジ側大規模モデルとは、車載端末上で独立して動作する大規模AIモデルであり、ローカル展開・低レイテンシー応答・高いプライバシー保護を中核的特徴とする。
- 業界はクラウド依存からエッジ・クラウド協調へと移行している。面壁智能は「エッジ側が車内を主導、クラウド側が外部を主導」というアーキテクチャを提唱する。エッジ側が車内のリアルタイム認識、プライバシーデータ処理、車両制御実行を担い、クラウド側が外部情報検索や高複雑度タスクを担う。
- スマートコックピットも従来の“対話型”音声アシスタントから進化し、常時稼働するマルチモーダル認識や行動理解、能動的なサポートを備えたAIEージェントへ発展。「話しかけなくても、邪魔せず、必要な時に適切に支援する」体験の実現を目指している。

面壁智能

SuperMateスマートコックピット製品



- MiniCPM-o 4.5**：世界初のエッジ側リアルタイム双方向マルチモーダルAI。「聞きながら話す・見ながら応答する」自然な対話を実現。
- MiniCPM 4B VLM**：軽量型マルチモーダルモデル。中～低演算性能のチッププラットフォームにも対応。
- エッジ・クラウド協調アーキテクチャ**：エッジ側で車内のリアルタイム処理、クラウド側で外部情報処理を担当。

商湯絶影

Sage エッジ側大規模モデル



- Sage Box**：Tokenコストを大幅削減、0.5秒の高速応答、「1つのAIで複数端末」に対応。
- New Member 2.0（ネイティブAIEージェント）**：複雑な指示を理解し、複数アプリをまたいだタスク実行が可能
- エッジ側のシフトによるサービスの高度化**：感情サポート、安全保護、スマート対話、移動サービスを統合したAI保護システム

エッジ側大モデルの一般的な特徴

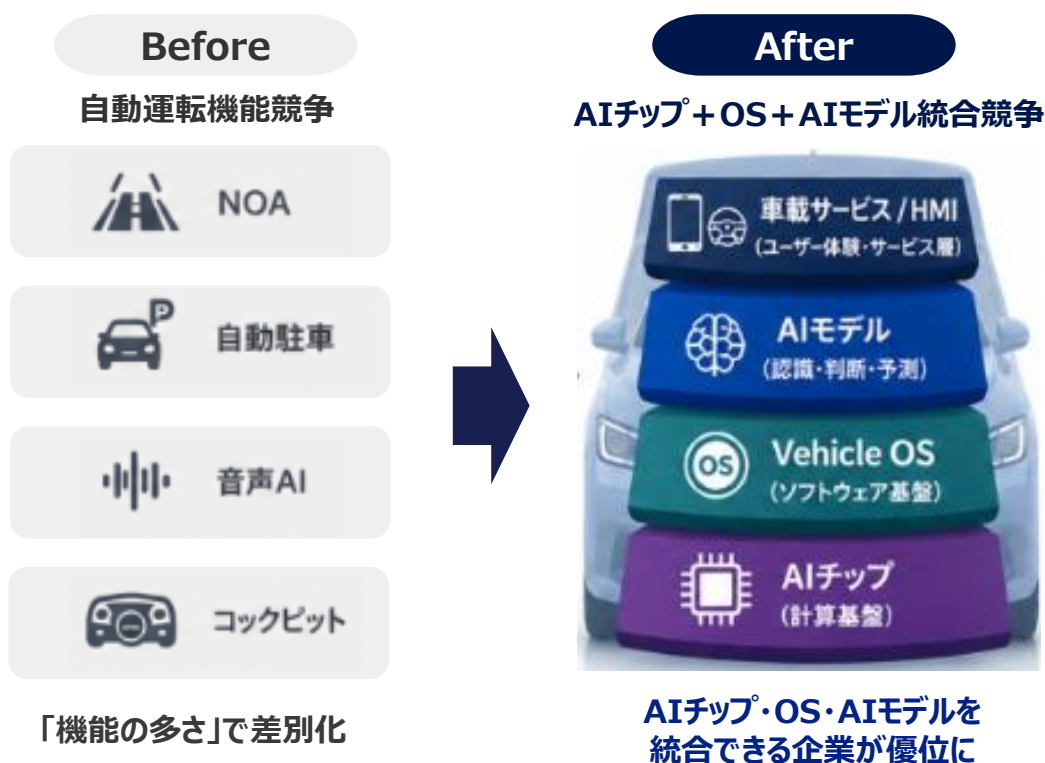
中核価値	特徴
プライバシー保護	個人情報的車内に保存し、データはデバイス外に出ない
ミリ秒応答	ローカル推論、初回応答0.3～0.5秒
オフライン利用可能	トンネル、地下駐車場などネットワークなし環境でも正常稼働
コスト管理可能	ワンタイム導入、継続的なToken呼び出し費用なし
パーソナライズ体験	ローカルデータに基づき、一人ひとりに最適化されたサービスを実現
マルチモーダル連携	音声・視覚・ジェスチャーの融合により、より自然なインタラクションを実現
省エネルギー優位性	ローカル処理により転送消費電力を削減、NPU加速でエネルギー効率を向上

トレンド⑤：「AIチップ+OS+モデル統合力」が競争軸へ

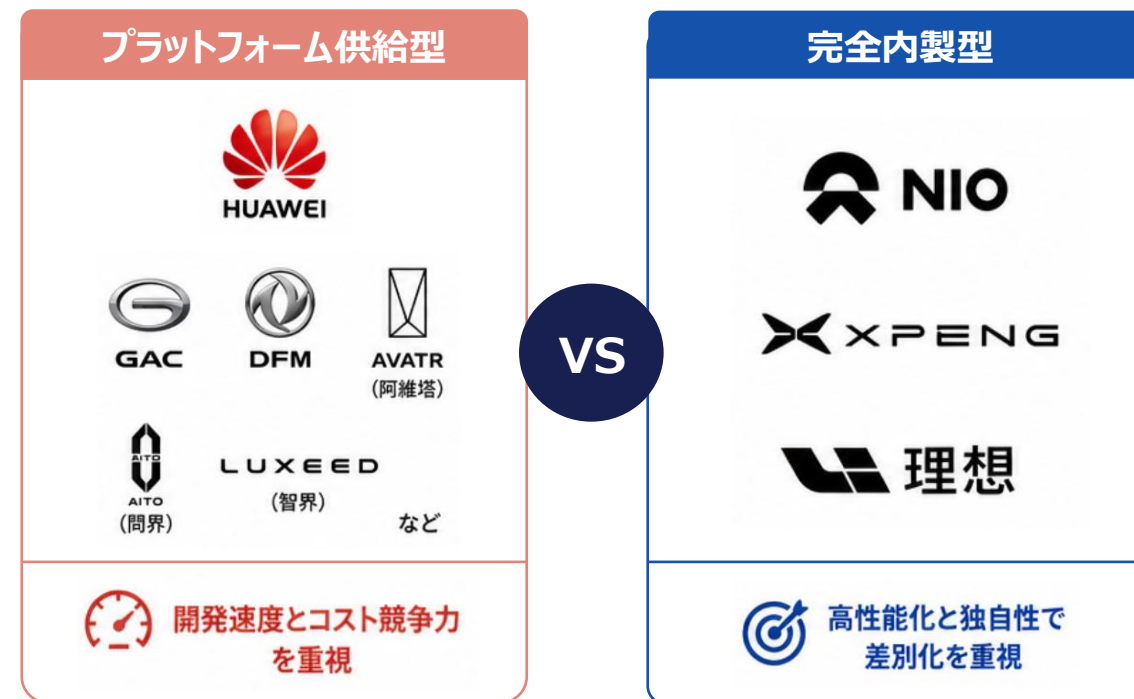
2026年中国ではL3自動運転の普及が本格化 競争軸は「機能数」から、「AIチップ+OS+AIモデルを握る垂直統合力」へ移行している

- 競争軸は「機能数」から「AIチップ+OS+AIモデルの統合力」へ：中国ではL3自動運転の量産が始まり、自動運転機能そのものの差別化は縮小しつつある。これを背景に、競争軸は「搭載機能の多さ」から、自社AIチップ・OS・AIモデルを統合する垂直統合力へ移行。理想（LiAuto）、蔚来（NIO）、小鹏（XPENG）は自社開発チップを強化し、性能最適化と差別化を進めている。
- 中国OEMは「プラットフォーム供給型」と「完全内製型」に二極化：中国EV市場では、チップ・OSを供給する「プラットフォーム供給型」と、自社チップ+自社OSを構築する「完全内製型」への二極化が進行。前者は開発速度とコスト競争力、後者は高性能化と独自性を武器に、次世代競争を主導しようとしている。

競争軸の変化：機能競争→総合力競争へ



中国OEMの二極化



※代表例の一つとしてHuaweiを取り上げている

トレンド⑥：専門の自動運転技術サプライヤーの存在感が高まる

Huaweiの「乾崮」智驾は45車種超に搭載され、Momentaも60車種超に採用され、両社がモーターショーのスマート運転分野を牽引

- HuaweiはW3ホールを中心に、4,400平方メートルを超える独立展示エリアを設置した。Huawei乾崮（Qiankun）スマート運転とHuaweiデジタルエナジーが、ホールの半分近くを占める中核展示となった。今回のモーターショーにおいて、Huawei乾崮スマート運転システムを搭載した車種は45モデルに達し、価格帯も15万円～100万円（約350～2,330万円）まで幅広くカバーしている。
- MomentaはB4ホールに出展し、零跑汽車（Leapmotor）やボルボなど主要完成車メーカーと同じエリアで展示を実施。20以上のブランド、計60車種以上にMomentaのスマート運転システムを搭載している。

Huawei乾崮スマート運転ADS 5



- **WEWA 2.0アーキテクチャ**：自動運转向けAIエージェントへと進化し、運転支援の意思決定効率が10倍向上。
- **全方位衝突防止システム CAS 5.0**：「六次元」安全体系を採用し、事前警告から事後保護までを含む包括的な安全カバーを実現。
- **896ライン・デュアル光路LiDAR**：120m先の14cmサイズの対象物を識別可能。異形障害物に対する認識・検知距離は77%向上。



Momenta R7 強化学習型ワールドモデル



- **ワールドモデル事前学習**：大量の実走行データを用いた事前学習により、AIシステムが物理世界に対する基礎認識を形成。
- **ワールドモデルシミュレーション**：ワールドモデルを自動運転の学習へ活用し、行動結果を事前予測することで限界領域を評価。
- **強化学習**：仮想環境内で試行錯誤を繰り返し、強化学習によって自律的に戦略を進化させる。



トレンド⑦：自動運転技術の「フィジカルAI」領域への拡張

自動運転技術が「車を走らせるAI」から「物理世界を理解・行動するフィジカルAI」へ進化し、車からロボットへの技術拡張が始まった

フィジカルAIへ拡張：2026年北京モーターショーでは、自動運転技術を自動車以外の領域へ展開する「フィジカルAI」の潮流が鮮明になった。各社は、自動運転で培ったVLA（Vision-Language-Action）モデル、マルチセンサー認識技術、AIチップなどをロボットやフィジカルAIへ応用し始めている。なかでも理想と小鹏は先行事例として注目されている。理想は「エンボディドAI」を企業戦略の中核に位置付け、L9 LivisにVLAモデルを搭載。小鹏は独自の「図霊（Turing）AIチップ」とVLAアーキテクチャを連携させ、車両による物理世界の理解と自律的な判断・行動の実証を進めている。

自動運転技術の「フィジカルAI」領域への拡張

車載AI技術



LIDAR (ライダー)
3D点群データを生成し、周囲の形状や距離を高精度に把握

カメラ
車線、信号、標識、歩行者など視覚情報を認識

センサー群 (冗長構成)
・ LIDAR
・ カメラ
・ ミリ波レーダー
・ 超音波センサー
・ GNSS / IMU

高性能コンピューティングユニット
AIチップ (NPU/GPU) を搭載した高性能ECUで、認識・予測・計画を実行

ミリ波レーダー
遠距離の物体や速度を検知
悪天候でも安定して動作

冗長化システム
・ 冗長電源
・ 冗長通信 (Ethernet/CAN)
・ 冗長ストレージ
・ 冗長ブレーキ/ステアリング

車両制御ECU
駆動・操舵・制動を統合制御し、安全な走行を実現

超音波センサー
近距離の障害物を検知
駐車支援や低速走行をサポート

高精度GNSS・IMU
高精度な自己位置推定を実現し、安定した走行を支援

代表的な構成要素例

- LIDAR (回転式/半導体式)
- カメラ (フロント/サラウンド)
- AIチップ (NVIDIA Orin/Driveなど)
- 高性能ECU (車載コンピュータ)
- 冗長電源ユニット

VLA・センサー・AIチップ・L4ハードウェア

応用先



エンボディドAI・飛行車・家庭ロボット

トレンド⑧：大型SUV競争が本格化

大型SUV市場は新規参入が相次ぎ、成長市場から価格・スマート化・快適性を競う「総力戦」フェーズへ移行しつつある

大型SUV市場の競争が本格化：中国OEMは、価格競争が激化した小型EV市場から脱却し、高利益率化を狙って大型SUVへ戦略シフトしている。その結果、今回の北京モーターショーでは、大型5人乗り・6人乗り・7人乗りSUV市場が、高級EV市場における成長分野から一転し、差別化・価格競争が進む激戦市場へ移行したことが鮮明となった。2026年北京モーターショーでは、各社が同セグメントへ集中的に新型車を投入し、競争はさらに激化している。

新エネルギー車メーカー各社の大型SUV

車種	クラス	シート数	価格 (万円)	パワートレイン	主な特徴
理想 L9 Livis	D級	6人乗り	50.98万元 (約1,190万円)	レンジエクステンダー	<ul style="list-style-type: none"> 800V電動サス 四輪操舵 「移動するリビング」をアピール
蔚来 ES9	D級	6人乗り	予約価格：52.8-65.8 (約1,060~1,320万円)	EV	<ul style="list-style-type: none"> ステアバイワイヤ 後輪操舵 フルアクティブサス
小鹏 GX	D級	6人乗り	39.98~ (約800万円~)	EV・レンジエクステンダー	<ul style="list-style-type: none"> 自社AIチップ4基 AIプロジェクションライト
問界 M6	C級	5人乗り	25.98-29.98 (約520~600万円)	EV・レンジエクステンダー	<ul style="list-style-type: none"> Huawei新896ライン 800V高電圧対応
BYD 大唐	D級	7人乗り	予約価格：25-32(約500~640万円)	EV・PHEV	<ul style="list-style-type: none"> 急速充電「閃充」技術 雲輦Aサスペンション
零跑 D19	D級	5・6・7人乗り	21.98-26.98 (約440~540万円)	EV・レンジエクステンダー	<ul style="list-style-type: none"> LEAP 4.0 Lidar搭載 「智駕平権」象徴

※「智駕平権」：高度自動運転技術を高価格帯だけでなく大衆価格帯へ普及させる考え方。

トレンド⑨：中国自動車産業は、技術導入から技術提供への転換

中国系は、スマート運転・チップ・動力電池で技術的な突破を実現、一方、外資系は中国技術への採用・連携が見られる

- **技術的な新たな突破（中国系）**：スマート運転分野ではL2 + 運転支援の普及が加速している。Huaweiの高度運転支援システムやLiDARを搭載した車種が増え、車載チップでも技術的進展が見られ、海外勢による独占構造を崩しつつある。新エネルギー車分野では、BYDなどが低温対応の急速充電や全固体電池などの新技术を披露し、航続距離や充電への不安解消を進めている
- **中国技術への依存・連携を強化（外資系）**：アウディ、ベンツ、BMW、GM、Toyotaなどが中国のスマート運転企業との連携を強化している。HuaweiやMomenta、Xpengなどの技術を導入し、中国向け開発を拡大するとともに、中国発技術を活用したグローバル戦略を進めている。

中国系：技術的な新たな突破

VS

外資系：中国技術への採用・連携を強化

1

スマート運転は「L2→L3」へ移行している

L2+の運転支援の普及が加速し、一部の車種では条件付きでL3機能も実現している。HuaweiのADS 3やXpengのXNGPなど先進機能も普及が進み、スマート運転は自動車メーカー競争の重要分野となっている。

2

国産チップは技術突破を実現し、市場投入も本格化している

一汽の「紅旗1号」やNIOの5nm自動運転チップなど、は世界トップクラスの車載半導体水準に到達。さらに広汽は、1,004個の半導体を100%国産化した量産車を投入し、海外勢の独占構造を打破した。

3

新エネルギー技術が全面的にリード（動力電池 + 急速充電技術）

BYD、CATL（寧徳時代）など複数の企業が次世代電池と高倍率急速充電技術を発表。高級車型では半固体電池の搭載が始まり、安全性とエネルギー密度がさらに向上。消費者の航続距離と充電に関する不安を根本的に解消する。

1

中国の自動運転技術を搭載

アウディA5L・新型Q5Lがファーウェイ「乾崑」を世界初採用し、中国スマート運転技術に適合した高級ガソリン車となった。ビュイック、フォルクスワーゲンもMomentaの統合システムを導入し、中国技術標準に全対応。

2

研究開発でも現地化が加速している

BMWは中国専用EVモデルを投入し、Mercedes-Benzは新型Sクラスのス마트運転を中国チーム主導で開発。フォルクスワーゲンも新アーキテクチャ「CEA」を中国主導で量産化するなど、開発の主導権が中国へ移りつつある。

3

中国テック企業との連携も拡大している

火山引擎はMercedes-Benz、BMW、Audiなどと提携し、「豆包」大規模モデルの搭載台数は700万台を突破。BMWはMomentaと高級スマート運転を共同開発し、ToyotaもHuaweiやMomentaの技術導入を加速している。

「匠新（ジャンシン）」会社紹介

ジャンシン(匠新)：日中間でのオープンイノベーションを推進するアクセラレーター



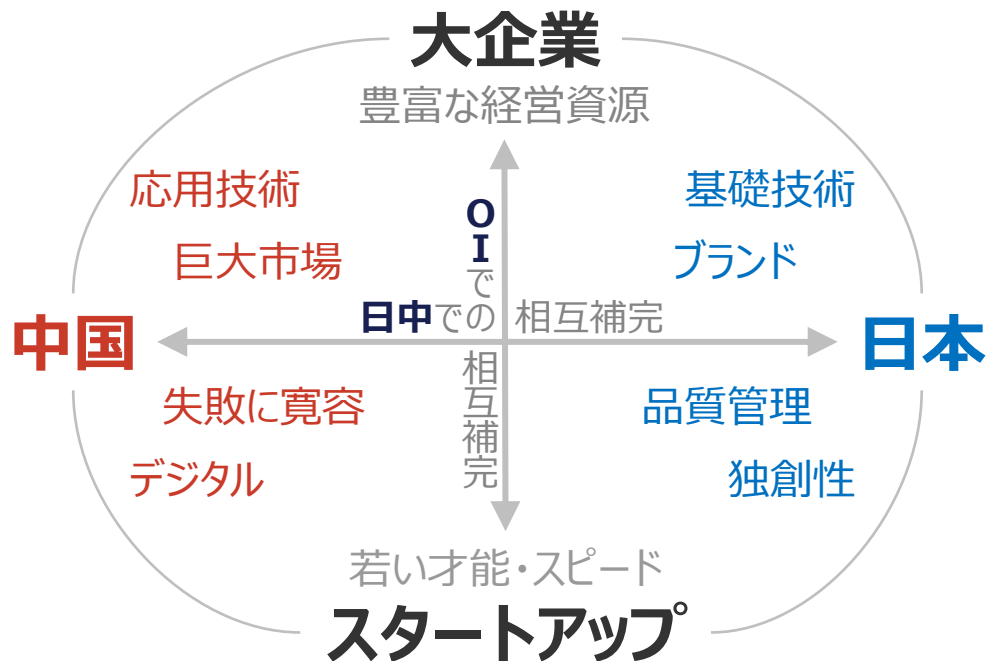
「日中アクセラレーター」として日中の事業会社の新規事業への取り組みとスタートアップ企業の成長を支援致します

なぜ今「オープンイノベーション(OI)」なのか

今の速い市場変化に合わせて開発するには自社のみでの開発ではスピードが追いつかず、また大企業とスタートアップ企業は経営資源面やスピード面においてお互いに補完関係にあり、相互連携によりWin-Winを実現

なぜオープンイノベーションを「日中」でなのか

日中それぞれの強みはオープンイノベーションにおいてさらに相互補完の関係にあり、地理的に近くまた市場も大きく、相互連携により日中イノベーション共創を実現

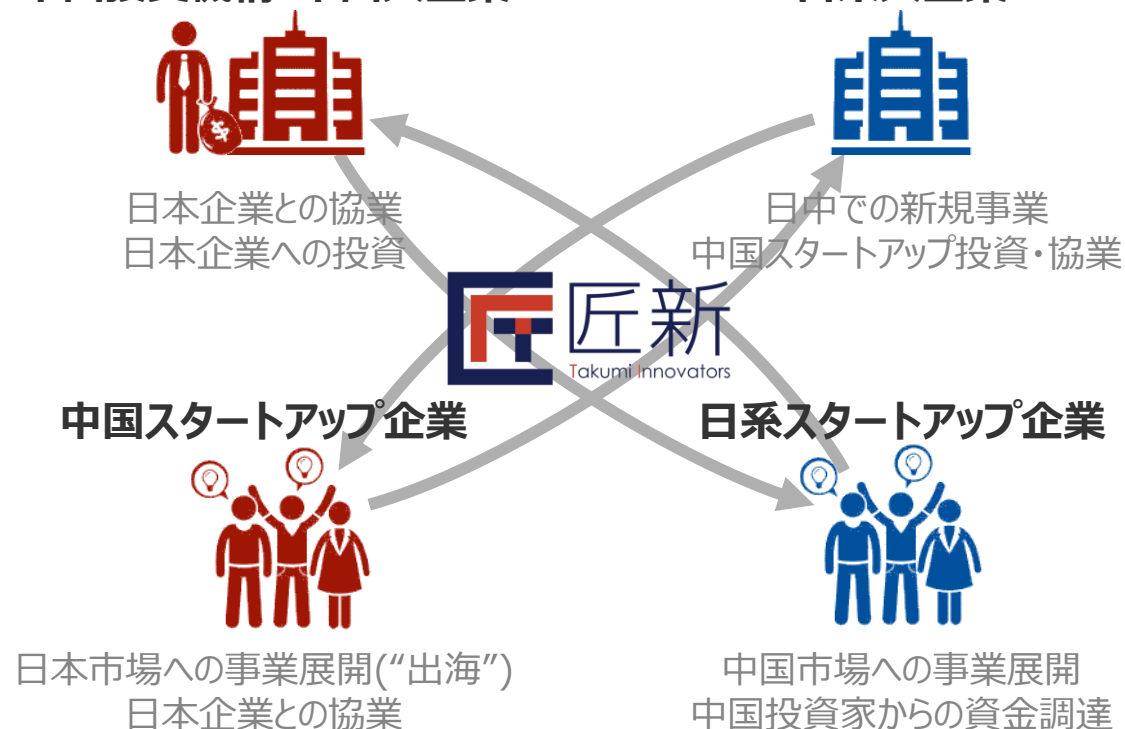


日中エコシステムの構築を推進

日中の言語や文化の違い、また成熟企業とスタートアップ企業の企業文化の違いのいずれもを理解する弊社が間に立ち、日中エコシステムの構築を推進していきます

中国投資機構・中国大企業

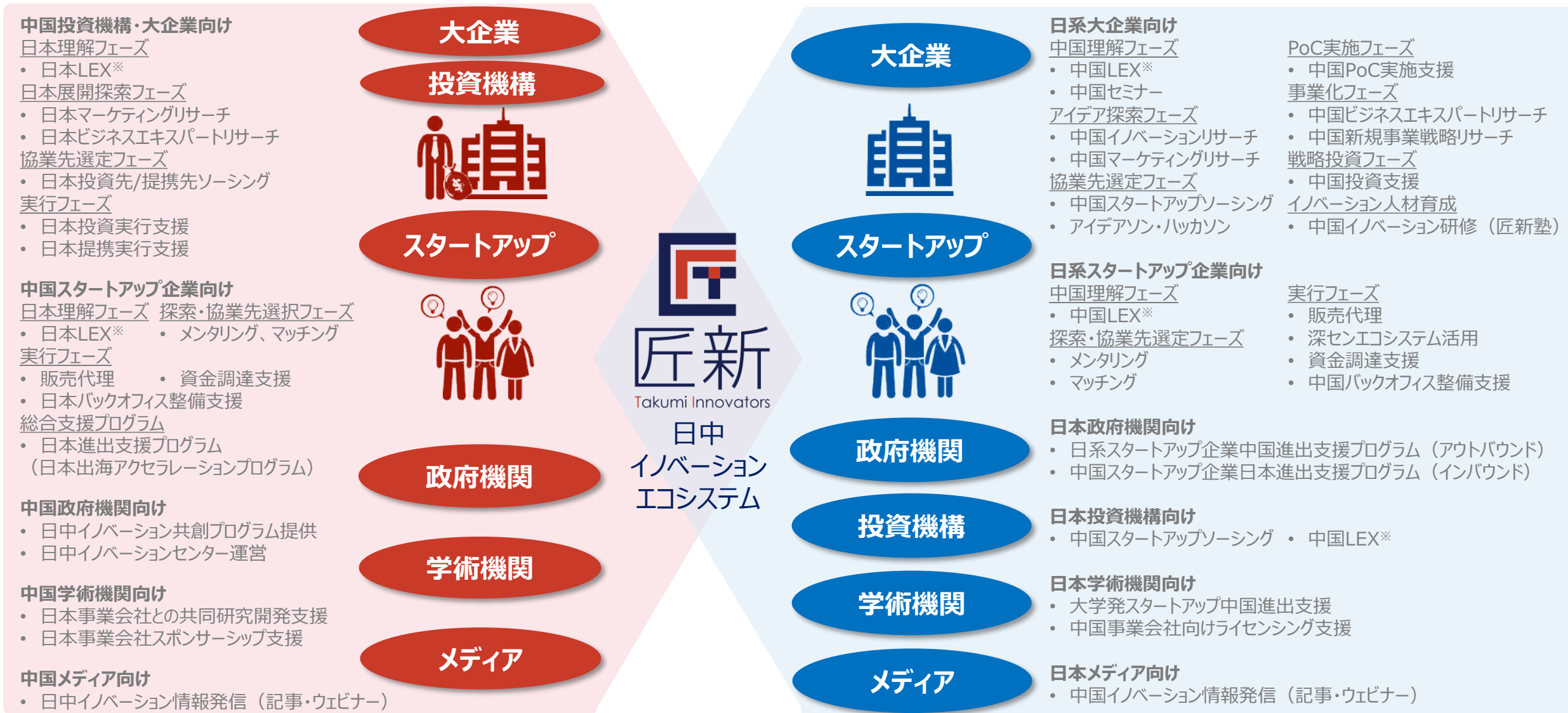
日系大企業



日中イノベーションエコシステムのハブとなり各プレイヤーへ関連サービスを提供



大企業とスタートアップ企業以外にも政府機関や投資機構、学術機関、メディア等とも連携し、日中イノベーションエコシステムを拡充していきます



※Learning Expeditionの略称で、現地にてイノベーション状況の体験や現地企業への訪問・交流などを通じて現地の状況を学習探索するプログラム

日系大企業向けに日中イノベーション共創を推進



日本事業会社の日中オープンイノベーションに対する取り組みのフェーズ及び目的に合わせて、以下の支援プログラムやサービスを提供致します

日本事業会社向け		日中オープンイノベーションに対する取り組みのフェーズ					
		中国理解	アイデア探索	協業先選定	PoC実施	事業化	戦略投資
目的・業界	新規事業 ・ イノベーション	中国セミナー ・中国イノベーション ・中国スタートアップ投資 ・中国DX ・中国カーボンニュートラル	中国イノベーションアドバイザー（顧問契約） コンサル型 ・中国イノベーションリサーチ（アイデア探索） ・中国スタートアップソーシング（協業先選定） イベント型 ・日中イノベーションアクセラレーションプログラム ・ハッカソン、アイデアソン		中国PoC実施支援 ・プロマネ支援 ・コミュニケーション支援 ・プロトタイピング支援 イベント型 ・日中イノベーションアクセラレーションプログラム	中国事業化支援 ・中国新規事業戦略リサーチ ・中国ビジネスエキスパートリサーチ	中国投資支援 ・中国スタートアップ投資 ・中国VCファンド投資
	小売・アパレル業界向け	中国小売業界でのB2C/B2Bそれぞれのデジタル活用や、中国アパレル業界での「小単快反*2」のサプライチェーン活用などを支援					
	自動車業界向け（EV・モビリティ）	中国EV市場およびモビリティサービスの発展トレンドを捉えて新たな商機を掌握、また中国EVサプライチェーンへの参入を支援					
	製造業向け	中国の製造現場におけるデジタル導入やスマート化を支援、また中国カーボンニュートラルへの対応で生じる新たな商機を掌握					
	啓発・人材育成	中国LEX*1	中国イノベーション研修プログラム / 中国DX研修プログラム / 匠新塾（公開型イノベーション研修プログラム）				
エコシステム活動	日中イノベーションコミュニティ運営 / 日中イノベーション展示・マッチングイベント / 中国イノベーション情報発信（寄稿・ウェビナー）						

*1 Learning Expeditionの略称で、主に日本本社向けに中国現地にて中国のイノベーション状況の体験や現地企業への訪問・交流などを通じて中国の状況を学習探索するプログラム

*2 「小単快反」とは先ず小ロット生産した上で市場に出し、市場からのフィードバックを受けて売れそうな場合は迅速にレポート生産するための仕組み

(参考) 日系スタートアップ企業向けに中国事業展開を支援

日系スタートアップ企業の中国事業展開に対する取り組みのフェーズ及び目的に合わせて、以下の支援プログラムやサービスを提供致します

日系スタートアップ企業向け		中国事業展開に対する取り組みのフェーズ			
		中国理解	事業展開探索	協業先選定	実行
目的	販売	中国LEX*2	メンタリング ピッチイベント 個別マッチング	中国販売パートナー マッチング(共同開発先含む)	販売代理
	生産			中国OEM工場 マッチング	深センエコシステム活用支援
	資金調達			中国投資家 マッチング	資金調達支援 (FA)
	バックオフィス 整備				会社設立支援 知財対策支援 会計税務支援 人事労務支援
	エコシステム活動	日中イノベーションコミュニティ運営 / 日中イノベーション展示・マッチングイベント / 中国イノベーション情報発信 (寄稿・ウェビナー)			
支援プログラム*1	JETRO GAH*3 支援プログラム	JETRO GAH ブリーフィング	JETRO GAH メンタリング	JETRO GAH マッチング	
	地方自治体 支援プログラム	中国エコシステムセミナー	メンタリング	ピッチイベント&マッチング	

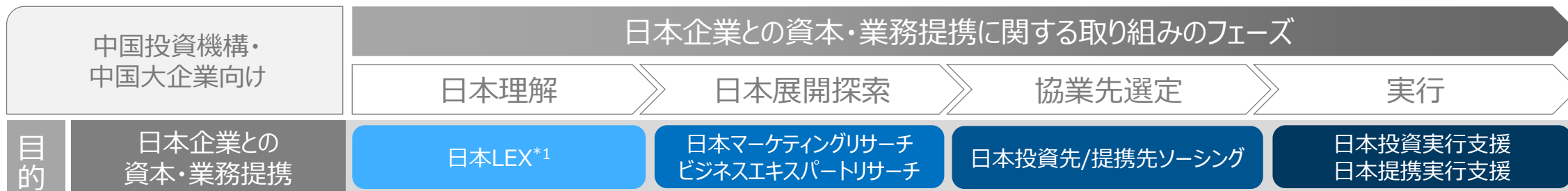
*1 JETROや地方自治体と共同で提供する日系スタートアップ企業向けの中国展開支援プログラム (常時提供しているものではなくプログラム実施時のみ利用可能となります、予めご了承ください)

*2 Learning Expeditionの略称、中国現地にて中国のイノベーション状況の体験や現地企業への訪問・交流などを通じて中国の状況を学習探索するプログラム

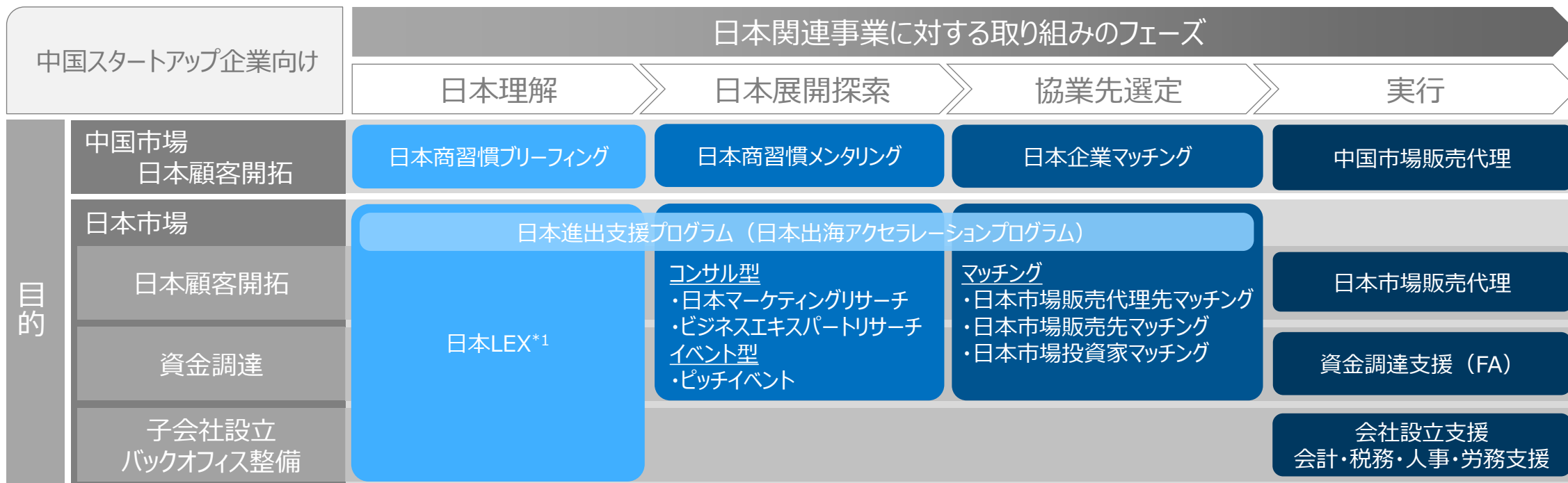
*3 Global Acceleration Hubの略称、JETROの日系スタートアップ海外展開支援プログラム (<https://www.jetro.go.jp/services/jhub>)

(参考) 中国企業向けに日本関連支援サービスを提供

中国投資機構・大企業の日本企業に対する取り組みのフェーズ及び目的に合わせて、以下の支援プログラムやサービスを提供致します



中国スタートアップ企業の日本関連事業に対する取り組みのフェーズ及び目的に合わせて、以下の支援プログラムやサービスを提供致します



*1 Learning Expeditionの略称、日本現地にて日本のビジネス環境を理解したり現地企業への訪問・交流などを通じて日本の状況を学習探索するプログラム

中国情報発信：日経BP、TECHBLITZ、クロスアーキテクト 他



朱 真明
しゅまさき
匠新 (ジャンソン) - 創新加速事業部

著者



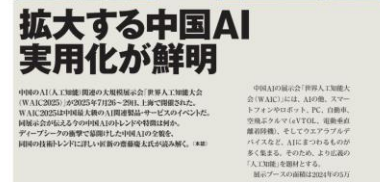
説田 莉子
せつたりこ
匠新 (ジャンソン) 創新加速事業部

著者



井出 露美
いでろみ
匠新 (ジャンソン) 創新加速事業部

著者



「2026広州モーターショー視察ツアー」のご案内

■ 概要

ジャンシンでは、中国市場・中国企業への理解を深めるため、主要展示会期間に合わせた中国視察ツアー（LEX）を企画・実施しています。2026年12月は、中国三大モーターショーの一つ「広州モーターショー」に合わせ、モビリティ関連企業の視察訪問を組み合わせた特別視察ツアーを実施予定です。

■ LEXの特徴と得られるもの

- **昨年度のモーターショーレポートを提供！** 昨年度モーターショーレポートを送付致します。昨年度のモーターショー情報とモビリティトレンドを踏まえることで、より今年度の理解を深めることができます。
- **専門スタッフによる現地解説付き視察！** 中国モビリティ・EV分野に精通した専門スタッフが全行程同行し、注目企業・技術・トレンドについて解説を行いながら会場を視察致します。
- **現地企業訪問で産業構造を深掘り！** モビリティ関連企業を訪問し、中国自動車産業の構造、技術動向、事業展開についてより実践的・具体的な理解を深めます。
- **日本語通訳・運営サポートで効率的な視察を実現！** 全行程において、日本語通訳および運営サポートを提供し、現地企業・関係者への質疑応答や意見交換を十分に行いながら、効率的にモーターショーを回ることができます。

■ 日程(暫定)

- ①11月30日(月) 広州モーターショー同行解説ツアー
- ②12月1日(火) 中国モビリティ企業視察ツアー

■ 詳細とお申込みはこちら

ご興味のある方は、下記リンクより詳細のご確認およびお申込みをお願いいたします。<https://www.takumi.ltd/26gz-mtour>

※カスタマイズ視察の企画・実施が可能です。ご要望がございましたらinfo@takumi.ltdまでお気軽にお問い合わせください。

